

令和2年度 身近な教育委員会・教育懇談会

教育委員会室から外に出て、区民の皆さんに教育委員会の周知を図るため学校等で開催する「身近な教育委員会」、教育委員や事務局幹部職員が区民や保護者と教育問題について話し合う「教育懇談会」を下記のとおり実施いたしました。

記

日時：令和2年11月4日（水）10時30分～12時30分

場所：赤塚第一中学校体育館

概要：第1部 令和2年第23回教育委員会（臨時会）

○GIGAスクール構想概要について 平沢教育支援センター所長
ベネッセコーポレーション

○講演

「New Normalに生きる子どもたちへ

～GIGAスクール構想実現に向けて～

板橋区教育委員会委員 青木 義男

第2部 教育懇談会

○グループ討議

「コロナ禍 教育委員会・学校に期待すること、家庭で行いたいこと」

A これからの社会を生き抜くにあたり、子どもたちにどのような力を
育んでいきたいですか

B タブレットが一人一台になったらどのような教育を望みますか

※第1部の内容を受け、グループごとにAB2つの視点を基に討議を行いました。

※各班の意見のまとめ、教育長の所感（要旨）は、次ページ以降のとおりです。

参加者：64名（内1部のみ参加 保護者等4名 事務局関係者2名）

（内訳）保護者等 44名

教育長・教育委員 4名

中川修一教育長 高野佐紀子教育長職務代理者

青木義男委員 松澤智昭委員

学びのエリア校長・副校長 5名

赤塚第一中学校長 新飯田 潤一校長 岡部 誠副校長

北野小学校長 田郷岡 正秀校長

徳丸小学校長 丸山 実校長 四家 薫副校長

教育委員会事務局関係者 11名

令和2年度 教育懇談会 各班の意見まとめ

◎各班の発表内容

時間に限りがあるため、7班のうち、3つの班に発表していただきました。

<D班>

- 新しいタブレット教育が始まる中で、格差などが広がると困る。
- タブレットなどは、自分が調べた内容によって、おすめが自動的に出てくるので、グーグルの設定などを検討してほしい。
- 目が悪くなるのが心配なので、時間を区切って使うようにすることが重要だと思う。

<E班>

- 一人一台になることの副作用として、これまでと授業形態が変わってくること、子どもが端末を持ち帰ってくるようになるので個人での管理などが問題になってくるのかと想像するが、まだ問題が洗い出せていないのかと思う。先行で全児童に端末を配る学校で、問題点の洗い出しなどを行い、経験を生かして対応していければと思う。
- 家庭ごとの知識の差、ネット環境の有無などのフォローをどのようにしていくか検討が必要である。
- GIGAスクールだよりなどが発信されているが、保護者に伝わっていないこともあり、情報発信を強化してほしい。
- 端末を使うことのメリットとして、インフルエンザなどで出席停止になり、元気だけど学校に来ることができない子どもなどが、自宅でオンラインで学習できるようになるのではないかと、学校には来ることができるがクラスに入りにくい子ども、端末を使うことで、一緒に学習できるのではないかとすることに期待している。

<G班>

- インターネット環境は大丈夫なのだろうか、タブレットを1家庭で複数台使用することは可能なのか、子どもが特別支援学級に通っている場合はどのような使い方をするのか、子どもたちが使いこなすことができるか、子どもたちはすぐに慣れてしまうが親世代が教育を受けていないので使わせてあげることができるのか、などタブレットの活用方法について話がでた。
- 子どもがタブレットを使っているときに、親がどのように支援できるか不安である。
- タブレットという最新機器を使った教育には、大変興味もあり素晴らしいことだと思うが、今は期待と不安が入り混じっている。
- タブレットを使ったからといって、学力が飛躍的に向上するかというと、そうではないという結果が出ている区もあったとのことだが、タブレットでも記述式のドリルでも、勉強するのは子どもたちなので、タブレットの活用方法について、教育委員会・学校・家庭で話し合いができればよいのかなと思っている。

◎その他 各班で出たご意見等（抜粋）

<A班>

- このような状況なので命を大事にする教育をしてほしい。また、フレキシブル（柔軟）な人間力が育つ教育をしてほしい。
- ツールとして双方向で対話的な目的でタブレットを使用できるようにしてほしい。また、タブレットは貸与品であること、使い方や壊さないように大事にするなどのルールをしっかりと教えてほしい。
- 保護者にも情報を流してほしい。また、保護者も学校任せにするのではなく、学校と一緒に主体的に学ぶ姿勢が必要である。そのため、お知らせが頻繁に送られてきてもわからなくなるので、

保護者が必要な情報を取りに行けるような仕組みをタブレットを通して作ってほしい。

- コロナ禍で何が正解なのかわからない中で過ごしてきた。一人ひとりが現状でいいのか考えるようになったことは良いことである。止める決断も必要であるが、見失っていた授業や行事を行うことの目的を考えるようになった。学校には止めるだけでなく、この状況のなかでもっと良くするにはどうするべきかなど、考える力を養う教育を行ってほしい。

<B班>

- 家庭での回線の貧弱さによる格差が心配である。
- タブレットを活用した新しい授業スタイルによる劇的な変化（授業のビデオオンデマンド化による予習復習ペースの年単位での自由化や授業レベルの複層化など）を期待する。
- 紙で勉強しなくなることへ不安がある。
- むしろ先生の負担が増えるのではないかと心配になる。
- 学校とのコミュニケーションが取りやすくなることを期待する。

<C班>

- 活用における教員の情報活用能力差について不安がある。
- 特別な配慮を要する児童・生徒における活用について、どのように活用できるか。
- 家庭におけるインターネット環境整備や家庭における端末の活用方法について教えてほしい。

<E班>

- 将来的には、社会が大きく変化する。今、存在している職業も無くなってしまいう職業も多い。そうした中で、子どもたちの生きる力、稼ぐ力を子どもたちに身に付けさせることが大事である。
- GIGAスクール構想については、現場には話がおりておらず、保護者がほとんど知らない。周知が不十分である。
- 個々の家庭でWi-Fi環境などが違い、環境がない家庭もあるので、十分な説明と丁寧な対応をしてほしい。
- タブレット端末の導入で、先生たちの業務が軽くなると良いと思う。
- 子どもが障がいを持っているので、機器の導入により、ハンデの解消につながる活用を期待している。

<F班>

- 実体験・個性へのアプローチの重要性は変わらない。教育の中でアナログを磨くことが重要である。
- タブレットに向かう時間が増える。会話やアピールといった能力が伸ばせるのか不安である。
- コロナで大学生の子どもは学校に通えておらず友人もできない。人との触れ合いのなかで学ぶことは大切である。
- 将来の社会的変化を柔軟に乗り越えられる人材育成が必要である。
- 非常事態や争いが生じた場合の子どもの心構えが大切である。
- 先生たちのGIGAスクールや学習指導の考え方が大事である。

<G班>

- 家庭におけるICT環境の差がそのまま子どもの学力の差になるのではないかと不安である。
- 特別支援学級の子どもは、ミライシードのように単純に学年のレベルを下げればよいということではない。他の手立てが必要である。
- タブレットを与えれば意欲が高まるものではない。初めは意欲を示すがすぐに飽きる。意欲を高める手立てが必要である。
- 子どもはタブレットにすぐ慣れるが、紙世代の親が心配。家庭で教えられるのか。
- ベテランの先生方が、授業でタブレットを使いこなせるのか不安である。

◎その他本日の内容を受けての質問等

- ① P T Aも含め、小学校のネットワークが使用することが現状はできない。G I G Aスクール構想を進めるうえで重要なのは、ネットワーク環境なので、学校のW i f iを開放するなど、学校のネットワーク環境の改善を望みます。
- ② G I G Aスクールのことについて、子どもからプリントなどが一切届かないのは家庭の問題かもしれないが、G I G Aスクール構想について全く知らなかった。自分で調べるなど、ネット環境を使用して勉強をするということなので、全ての家庭で環境が整っているのかがとても心配となる点である。
今、未就学児でこれから小学校に上がる子は、夕方、あいキッズに通わせることになるので、あいキッズでタブレットを使った宿題などができるのか。
タブレット学習について、宿題がおわったかどうか、保護者が家庭で確認することができるのか。

(次長)

- W i f i環境について、令和5年度までの予定が、現状学校のW i f i環境は整っていない。来年9月の本格稼働までの間、タブレットをどのように使っていくか、しっかりと教育委員会で検討していきたい。
各家庭については、全家庭に行き渡るような仕組みを検討していきたい。各家庭の状況を把握がしきれないところもある。今後も学校をとおして説明をしていきたい。

(教育支援センター所長)

- あいキッズでのタブレットの使用については、あいキッズではW i f iが整備されていないところが多いと聞いている。学校の図書館などで宿題をすることが可能ではないかということで、現在検討調整に入っている。
家庭にネット環境のない子どもも、放課後に図書館に残ればそこで学習ができるようになるので、同じ考えで、あいキッズでも学習できればと考えている。
 - 子どもが解いたドリルパークをご家庭で確認できるかということについては、家庭で再度ドリルパークを開いてもらえれば、保護者が確認することは可能ですので、一緒に学習していただければと思う。
- ③ 休校になった時にP T Aで色々話したが、学校から出されたプリントを家庭で教えることが大変で喧嘩になる状況が多かった。今後タブレットで学校や家庭で教育するというようになった時に、保護者も家庭で教育する責任があるということを、しっかりと伝えておかないと、喧嘩が多発し、タブレットを使って家庭で教えるのが嫌になってしまうのではと思う。学校もP T Aも、保護者も家庭教育をする責任がある旨を伝えていくことが必要だ。

- ④ タブレットがN E Cになった経緯と教育に使うソフトの選定過程について教えてほしい。

(教育支援センター所長)

- 文部科学省から標準タイプとして示されたものの中から採用した。全国の小中学校で一斉に入るということで、国産のものを使用することとした。国産のChromebook はN E Cでしか製造していないということで、N E Cに決定した。国の補助が1台につき、45,000円と決まっているため、上限ギリギリのところを選定をした。
- ソフト環境については、協働学習支援ソフトや本日までご覧いただいた個別学習支援ソフトなどが決定している。採用にあたり、校長先生などにお集まりいただき、体験していただき、選定会議で決定した。

◎ 教育長所感 （要旨）

【はじめに】

寒い中お集まりいただき、ありがとうございました。

【GIGAスクール構想について】

GIGAスクール構想について、本来令和5年度スタートの予定だったものが、令和3年スタートと前倒しになったことで、全自治体で歩きながら、試行錯誤しながら、よりよいものを作り上げていこうとしている状況です。

そんな中で、今回のグループ討議を通して教育委員会サイドもみなさんに状況を伝えているつもりでいながら、伝わっていないということを実感させていただきました。機会をとらえて情報発信をするとともに、今回いただいた貴重なご意見を持ち帰らせていただき、よりよいものにブラッシュアップしていくことができればと思っています。

【自己学習力について】

コロナ禍において、子どもたちは自己学習を余儀なくされました。ご家庭でも大変だったことと思いますが、学校側も今できることはこれしかないということで、先生方も一生懸命全力を尽くしたということは、既にご理解いただいていると思います。

その中で、子どもたちに身に付けさせていかなければならないのは、自学自習、自己学習力です。自分でしっかり課題をもって、学び続けていく、これは大人になっても続いていく非常に重要な力です。自己学習力がないということは、懸念されますし、学校教育でもその力をつけさせねばなりませんし、先ほどのお話しにもあったように、家庭でも、自ら学習していくような環境づくりをしていただくことがとても大事だと思っています。

【読み解く力について】

板橋では、「読み解く力」に力を入れています。「読み解く力」とは、教科書等に書かれていることをしっかりと読み取り、自分の頭で考え、それを文字や言葉として表現する力のことです。この「読み解く力」をつけていくことが、自己学習力の育成にもつながる、非常に重要な教育活動になってきます。

「読み解く力」というと国語のイメージですが、板橋区では、すべての教科で、教科書を用いてこの力をつけていこうと進めているところです。12月には中間発表を行おうと思っており、皆様にも情報発信をしていこうと思っています。

【コロナ世代 = 試行錯誤し、やり遂げる世代に】

「ゆとり世代」と聞くと、何となく学力が低い、勉強しない世代ととらえるマイナスのイメージがあります。今の子どもたちは、もしかすると「コロナ世代」と呼ばれるかもしれません。学校が休業になり辛い思いをしてきた中で、先生たちと子どもたちがそれぞれの発想で話し合って新たなものを生み出そうとしています。すなわち、コロナ世代の子どもたちは、マイナスのイメージではなく、「困難な環境にあっても試行錯誤して自分たちの力で何とか成し遂げようとする子どもたちだよ」と言われるような世代にしたいと思っています。

ぜひコロナ世代の子どもたちが、先々光り輝くような、学校教育、家庭における教育やしつけをしていければと思います。

【おわりに】

今日は貴重なご意見を聞かせていただいたことに心から感謝申し上げます。

みなさまには、これからも、学校そして教育委員会の応援団としてご尽力いただきますことをお願いしまして、私からの言葉といたします。本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。